

第4回橋本市 ESD 連続セミナー

- ◇開催日時 平成30年1月15日(月)16時～18時
- ◇会場 橋本市教育文化会館 302会議室
- ◇参加者 市平(紀見小学校)、川西・上田・阪本・五十川・寺本・堂本(三石小学校)、
今田、中谷(あやの台小学校)、森(橋本市教育委員会)、中澤

◇内容

(1) レポート交流

- 市平 : 1年生では、自然を意識させることが重要だと思う。
本当の幸せを1年生なりに話し合うことが重要だと思う。
感じたり・考えたりするもとに教科がある。振り返りの習慣化が重要。
自分の今の生活が当たり前でないことに気づくことが重要。
自分の生活を表現し、交流することで当たり前が当たり前でなくなる。
- 川西 : 子どもの生活を ESD の授業化することの重要性
それを理由づけできるようになること
家電の変化によって、学校と家との生活スタイルの違いが背景にある。出しっぱなしにした水を可視化させることで子どもの意識を変えていく。
生活スタイルを1年生に学ぶことで、学校の文化が変わる。
- 上田 : 指導者が ESD を意識しながら取り組むことで、他教科とのつながりが生まれてくる
野菜作りなど活動の変化は見られるが、生活面での変容も捉えて褒めることが重要
言語化・数値化することが重要・他者からの評価・手ごたえを感じさせることが重要
文化への敬意のまなざし
- 阪本 : 教師が ESD を理解することで、教科間をつないだ授業展開が可能になる
ESD カレンダーはあるが、学校全体の取り組みになれていない。全体で取り組むことで成果が生まれる。
ESD を使う教師が使い方を真剣に考えることで、機能する。
ESD カレンダーの使用が難しい。インフュージョンアプローチは重要。
話し合う場と時間を持つことが、ESD カレンダーの活用につながる唯一の方法
- 五十川 : 生活と結びつけることに留意して取り組むこと
ゴミの減量のためにできることではなく、それによる児童の変容を想定して授業展開を考える
学習の意義を感じさせることが重要(どのような方法で感じさせるかを想定しておく)
- 寺本 : 教える側・教えられる側を乗り越えようとしているところが重要。
「はっ」としたことを表現できることが重要
そこから追究する学びが生まれる
- 堂本 : ホールスクールアプローチによって、授業内容が深まる
牛糞との交換も、学校全体・学校間交流を踏まれば可かも
野菜作りは1年間に1回しかできないので、学校全体で取り組むこと・学校間交流
支援者の情報を蓄積が重要
- 今田 : 持続可能な未来づくりに、全体が向かっていくことが重要
色々な課題を自分ごとにするのが重要

個人的力量（スキル・能力）と集団的力量（社会・文化の継続）
現代社会を改善する学びが ESD

(2) 優良実践事例の分析

①持続可能な開発の定義

将来世代のニーズを損なうことなく、現代世代のニーズを満たすような開発

世代間の公正 環境保全
世代内の公正 人間の基本的ニーズ

②ESD の観点

多様性、相互性、循環性（有限性）、公平性、連携性、責任性

③ESD で育てたい能力・態度

- ・クリティカルシンキング（批判的思考力・代替案の思考力・多面的思考）
- ・システムズシンキング（総合的思考力）
- ・長期的思考力
- ・コミュニケーション力
- ・協働的問題解決能力（協調性・リーダーシップ）

